

平成29年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書

評価項目1	学校教育目標の設定・共有	
現 状	昨年度の自己評価はB（84.1%）であった。	
評価指標	全教職員が学校教育目標を共通理解し、その達成に向けて努力する。	
達成目標 (数値目標)	ア、イ（下記自己評価の基準を参照 以下同じ）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	「 全体方針・ビジョン 」及び各分掌の「 具体的目標 」にしたがって、 検証票の副校長提出を義務づけ、月ごとの検証と改善の計画実施を促した。	
自己評価	A (85.7%)	[反省・意見] ・3年がかりで達成できたので維持、さらには発展させたい。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	[意見・提言] ・さらなる努力を期待します。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 管理職が達成に向けて積極的に働きかけていることは評価できる。 今後より具体的な目標設定とそのための行動指針を明確に発信することを期待する。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	後期始業式などで目標の再確認を行い、年度はじめの気持ちを新たにする。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成29年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目2	組織の充実・校務分掌の明確化	
現 状	昨年度の自己評価はB（72.3%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標や重点目標を達成するため、各分掌の役割や取り組み内容を明確にする。 ・組織的に連携するため、自己の職務の検証と他の分掌への提案を行う。 	
達成目標 (数値目標)	ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	各分掌とも協力して業務ができた。	
自己評価	B (75.8%)	[反省・意見] ・業務を組織的に行うことができた。また、組織ごとに協力することができた
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	B	[意見・提言] ・パーセンテージが上がったことは評価できる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 分掌ごとに取り組みへのエネルギーの差があるように感じる。 分掌の取り組み状況を互いに共有して意見交換する場を積極的につくることが望まれる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	情報共有、連絡、申し送りを徹底する。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成29年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目3	学年・学級運営の充実	
現 状	昨年度の自己評価はB（64.2%）であった。	
評価指標	学年団は、教育目標や重点目標を把握し、生徒の居場所となる学校や学級づくりに努力している。	
達成目標 (数値目標)	①進学学強化土曜日ごとに学年情報交換会を行う。 ②月に1度学年集会を行う。 ③月に1度大掃除を行う。 ④2者面談、3者面談を1年にそれぞれ最低1回行う。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記①～④を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。	
自己評価	B (60.3%)	[反省・意見] ① ② ③ともに物理的、時間的に困難な目標設定か。スコアが毎年下がるので目標の設定し直しも検討したい。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] ・できることから着実に実行してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	C	[意見・提言] 物理的な時間の確保が難しいことは理解できるが、日ごろからコミュニケーションを意識して情報交換をすることを心がけることで、学年経営の質は大きく変わってくるはずである。 学年主任を中心に、日常的にコミュニケーションを心がけてほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	重点的な清掃ポイントの設定。学年団が会議時間を持てるような時間割の工夫。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成29年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目4	教育課程の円滑な推進	
現 状	昨年度の自己評価はA（85.0%）であった。	
評価指標	各コースごとに特色ある教育課程の編成に努めている。	
達成目標 (数値目標)	① 授業交換のしやすい時間割を組み、自習を前年より5%減ずる ② クラス分けを工夫し、効果的な時間割編成をする。 ③ 生徒の現状を考慮し、各コースの見直しを行う。 ④ 特進系はセンター試験を、総進系は推薦入試を目標とした効果的なカリキュラムが組まれている。 ⑤ EXは中高一貫教育の効果的なカリキュラムが組まれている。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記①～⑤を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。	
自己評価	A (89.7%)	[反省・意見] ・次年度は大学新入試制度をふまえたカリキュラムを工夫。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] ・地道な努力を期待する。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] アクティブ・ラーニングに取り組む意識が学校全体に広がりつつあることは評価できる。今年度末に新学習指導要領が公示されるが、その精神を先取りして、時代の変化に対応できるカリキュラム作りを目指してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	授業の互見。アクティブ・ラーニングの推進。研究授業の実施。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成29年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目5	教科指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はA（82.1%）であった。	
評価指標	生徒の実態を踏まえた学習指導方法の工夫・検証・改善が行われている。	
達成目標 (数値目標)	①□授業評価アンケートの結果を年に2回、各科で検討し、その都度改善策を検討する。 ② 英検、漢検の目標合格率を定めてクリアする。 ③ 計画的に宿題・課題を出し、家庭学習の習慣が定着するように工夫する。 ④ 授業改善、アクティブ・ラーニングの積極的導入。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記①～④を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。	
自己評価	B (82.3%)	[反省・意見] ・アクティブ・ラーニング、授業公開は八割以上の教員が実施できた。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] ・コンスタントに80%を超えている。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 全体としては、生徒と教師との関係もよく、安定した授業が行われている。その反面、大きな改善も見られないことが残念である。マンネリを打破すべく、積極的に授業改善に取り組んでほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	一丸となった授業改善。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成29年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目6	生徒指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はB（83.6%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が共通理解のもとに統一的な生徒指導を行っている。 ・情報交換が常になされ、全教職員が問題を共有している。 	
達成目標 (数値目標)	① 遅刻者数1日10以下。 ② 服装違反0。 ③ 頭髪違反0。 ⑤ 撻指導の徹底。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記①～④を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。	
自己評価	A (86.9%)	[反省・意見] ・いじめ防止対策委員会が機能し、組織的に対応できた。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] ・努力の結果がうかがえます。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 一部の学年で生徒の学校への不信が見られる。改善に向かっている状況であるが、来年度信頼の回復に向けて学年一丸となって対応してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	生徒、保護者が全面的に信頼を寄せる学校の構築。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成29年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書	
評価項目7	進路指導の充実
現 状	昨年度の自己評価はB（76.3%）であった。
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導を向上させるため、朝学習や家庭学習の習慣の定着をはかる。 ・放課後講習を実施し、模試の分析などによって現役合格率を上げる。
達成目標 (数値目標)	①センター目標値を定めてクリアする。 ② 現役合格目標値を定めてクリアする。 ③ 学全国模試の目標点を定めてクリアする。 ④ 総進は課題未提出5%以下。 ⑤ 卒業時進路満足度80%以上 ⑥情報の全員共有。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。
実際の取り組み状況	上記①～⑤を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。高2対象進路出前授業を実施した。
自己評価	B (72.2%) [反省・意見] ・⑤は90%以上の生徒が「満足」であったが、①②③において「もう少し伸ばしてやれたのでは」という反省があった。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった
学校関係者評価	A [意見・提言] ・生徒が満足して卒業することが大事だと思われまます。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる
第三者評価	B [意見・提言] 例年と違って、高校3年生になっても学習意欲があまり上がっていなかったことが気になる。今年度だけの特殊性ならよいが、これが常態化することは避けなければならない。長期的なビジョンを持って、進路意識を子どもたちに醸成することが求められる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる
次年度に向けての課題	高2進路出前授業の実施を早い時期に。⑥の設定を高くしても実現できるように。

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成29年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書	
評価項目8	家庭・地域との連携の推進
現 状	昨年度の自己評価はA（91.9%）であった。
評価指標	日頃から保護者との連携を強め、学年通信、ホームページ等により、適切な学校の情報を提供する。
達成目標 (数値目標)	① 学年通信を年間10回以上発行する。 ② 近隣中学校へ年2回以上訪問する。 ② 文化祭の参観数が前回を超える。 ⑥ オープンスクールの参加者数が前回を超える。 ⑦ PTA総会の出席者数を把握する。 ⑧ 学校ホームページを充実させるとともに、印刷物等で学校情報を公開する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。
実際の取り組み状況	上記①～⑥を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。
自己評価	A (86.9%) [反省・意見] ・全項目について目標の達成ができた。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった
学校関係者 評価	A [意見・提言] ・家庭、地域との連携は大切。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる
第三者評価	A [意見・提言] 家庭・地域への積極的な発信は評価できる。今後は、学校の方針や目標を明確化し、それがどういうものか、子どもたちの具体的な姿で伝えること意識してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる
次年度に向けての課題	保護者の信頼をさらに高める努力。

自己評価の基準

ア よくあてはまる **イ** ややあてはまる **ウ** あまりあてはまらない **エ** 全くあてはまらない

- A** 達成した ア、イの合計が85%以上
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成29年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書	
評価項目9	省エネルギーの実行
現 状	昨年度の自己評価はA（96.5%）であった。
評価指標	光熱水費や用紙等の無駄を省き、省エネやリサイクルに取り組んでいる。
達成目標 (数値目標)	① 光熱費、暖房費を前年より減ずる。 ② 分別回収を徹底する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。
実際の取り組み状況	上記①～③を検証項目として、月1度のチェックと、副校長への報告を行った。事務室に電力消費の表を掲示し「見える化」をはかった。
自己評価	A (94.6%) [反省・意見] ・生徒、教職員とも当然の行動として省エネを実行している。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった
学校関係者評価	A [意見・提言] ・省エネ、リサイクルは学校だけでなく社会全体の課題である。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる
第三者評価	A [意見・提言] 省エネを意識した行動ができていることは評価できる。これからは身近な問題だけでなく、より視野を広げてESD（Education for Sustainable Development）への取り組みも検討してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる
次年度に向けての課題	省エネが日常当然のことになるように。

自己評価の基準

ア よくあてはまる **イ** ややあてはまる **ウ** あまりあてはまらない **エ** 全くあてはまらない

- A** 達成した ア、イの合計が85%以上
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

平成29年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 10	特別指導の充実 (中学校)	
現 状	昨年度の自己評価はB (79.4%)であった。	
評価指標	様々な体験活動や特色ある活動等が活発に行われている。	
達成目標 (数値目標)	①□体験活動・職場訪問・ボランティア活動を各定期考査終了直後に実施する。 ③ 講演会を随時催す。 以上の項目につき、ア、イ (下記自己評価の基準を参照) の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	① ②、ともほぼ達成できた。	
自己評価	B (83.9%)	[反省・意見] ・学年、クラス単位だけでなく中学校全体の活動として効果的な計画、実施ができた。
評価基準	A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持にとどまった D:現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	[意見・提言] ・引き続き頑張ってもらいたい。
評価基準	A:達成したと認められる B:ほぼ達成したと認められる C:現状維持であると認められる D:現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 体験活動等の充実は評価できる。今後、新しい学習指導要領で求められる社会に参画する意識を醸成するような取り組みを考えてほしい。
評価基準	A:達成したと認められる B:ほぼ達成したと認められる C:現状維持であると認められる D:現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	生徒、保護者、学校が相互に信頼し合う状況作り。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

- ・自己評価は全教職員による。
- ・学校関係者評価は、PTA役員(保護者)、学校評議員、学識経験者等、本校関係者による。
- ・第三者評価は、株式会社プラネクサス 教育コンサルタント 大西 貞憲 氏による。